

12 特別活動

特活プロジェクト

1 研究テーマのとらえ方

(1)はじめに

特別活動の指導にあたって、「豊かな感性を育む」とは、人間、自然、社会、文化などのかかわりを通して、①「生活をよりよくすることに気付く感覚をみかくこと」 ②「物や事象から感じたことを表現し実践化する力を育てること」 ③「実践したことを振り返りより確かな認識をすること」であるととらえている。

子どもたちは、日々の生活の中で「こんなことをしてみたいな。」「こんな生き方ができたらいいな。」と様々な夢や願いを持っている。そのような子どもたちの夢や願いを実現し豊かな感性を育んでいくためには、児童の内発性を重視したさまざまな活動の場を設定する必要がある。そして子どもたち自身の実践力を育てるため、その目標、方法、活動が可能な限り児童自身によって考えられつくられ、実践されていかなければならない。すなわち、自主的であること、実践的であることが望ましい集団活動を支える基本でなければならない。それは、子ども一人ひとりの中に豊かな心が育まれる過程でもある。

(2) 豊かな感性を育む特別活動

子どものよさや可能性は、人間、自然、社会、文化などのよさとかかわりを通して、また、教師のよさや集団の中で他の子どものよさとかかわることを通して、高められ豊かになるものである。集団の中で他の子どもとかかわることは、まさしく特別活動が特質としているものである。

子どもたち一人ひとりの感性を育む要素として特別活動においては、次の2つを上げることができる。

- ① 題材の持つよさと積極的にかかわることを通して、豊かな感性を育む。
- ② さまざまな活動場面の中で、教師や友達の人間的なよさや魅力とかかわることを通して、豊かな感性を育む。

豊かな感性を育むために、支持的な学級風土や学年風土を培っていききたい。特別活動において最も大切なことは、さまざまな活動を通して一人ひとりの子が、いつでも安心して本音を語れるような学級経営・学年経営を積み重ねていくことである。

(3) 豊かな感性を育むための条件

いくらよい題材であるように思えても子どもたち一人ひとりが本気で取り組むことができなければ活動は無意味である。豊かな感性を育む活動となるためには、いくつかのポイントになるようなことがあるように思われる。

では、特別活動の授業において、「豊かな感性を育む」ための条件とは、どのようなことであろうか？

☆〔特別活動の授業において、「豊かな感性を育む」ための条件〕

- ①子どもの豊かな感受性をゆさぶるような題材であること。
- ②教師と子ども、そして、子どもどうしの人間的なふれあいを基盤とする活動であること。

③子ども一人ひとりの自主的、実践的な活動の場が保障されていること。

2 研究の計画

(1) 研究仮説

特別活動の授業において、次のような手立てを持って授業を構成すれば、子どもたちの豊かな感性を育むことができるであろう。

- ① 子どもたちが、取り組みたいと願っていることを題材として取り上げる。
- ② 教師と子ども、そして子どもどうしの人間的なふれあいを深めるような活動の場を設定する。
- ③ 活動を通して、心の底から感じたことや考えたことなどを表現する振り返りの場を設定する。

特別活動において豊かな感性が育まれる過程を私達は次のように考えている。

学習のステップ	支 援 の 手 立 て
気づく・感じる	◎子どもどうしの暖かい心の交流が生まれるような様々な活動の場を設定する。 ・アンケートの実施や議題箱の活用により、子どもたちが主体的に活動内容を見つけ出していくことができるようにする。 ・計画委員・計画係などを中心にして、子どもたち自身の手によって学期ごとの活動計画が立てられるよう話し合いの場を設ける。
実践する	◎話し合いも含め、子どもどうしの人間的なふれあいの時間を十分に確保する。 ・五感をふるに働かせて、全力で体当たりしていけるような活動を大切に、子ども相互の高め合いに活動のポイントを置く。
振り返る	◎自分自身や友達のよさを見つめ共感しあう場を設定することにより、一人ひとりが達成感や成就感を味わい、新たな課題が持てるようにする。

(2) 今年度の研究成果と今後の課題

今年度は、「豊かな感性を育む特別活動」の研究テーマに取り組む第1年次として、「豊かな感じ方や気づきを育む」ことに焦点を絞り実践を積み重ねてきた。校内研究授業では、第1学年の児童を対象にして、「友だちのいいところをさがそう」の実践研究に取り組んだ。友達の似顔絵当てクイズの活動を通して、友達のいろいろなよさを見つけ合う学級活動である。このような実践研究に取り組んだ成果として、次の3点があげられる。①友達のよさを積極的に見つめ直そうとするきっかけづくりになった。②友達のよさに着目した題材が支持的風土を培ううえで大きな力となった③支持的風土を培う題材開発への推進力となった。以上のような点から、今年度の取り組みは豊かな感性を育む特別活動の研究の方向性のある程度明らかにしたものと言えよう。しかしながら、その題材見つけの段階や、具体的な活動内容を計画化していく段階で、1年生を対象とした活動とはいえ教師のリードにより進められていったことが、授業後の分析でも大きな問題点としてあげられた。子どもたちの発想や考えをもっと生かし、子どもたち自身の手による活動を作り出していくことに、来年度は取り組んでいきたい。